

Sonus faber[®]

HOMAGE



New Homage Collection

“Amati G5”

製品資料

Sonus faber の伝統、偉大な弦楽器の製作者に捧げる“Homage”の歴史

1983年にFranco Serblin（フランコ・セルブリン）氏によって創業されたSonus faber（ソナス・ファベール/イタリア）。1987年初代作品となる“Electa Amator（エレクタ・アマトル）”、1990年には“Minima”という現代においてもその名は多くのオーディオ・ファイルから支持される銘機です。そして、1993年には弦楽器製作の名工の名前を冠したブックシェルフ型スピーカー“Guarneri Homage（ガルネリ・オマージュ）”が生まれました。ソナス・ファベール社屋が位置するヴェネト州に隣接したロンバルディア州の都市、クレモナ出身の偉大な弦楽器製作者の一族「Guarneri（ガルネリ）」へのオマージュとして生まれたスピーカーです。そして1998年には同じく偉大な名工の名前を冠したフロアスタンディング型スピーカー“Amati Homage（アマティ・オマージュ）”が生まれました。



Guarneri Homage



Amati Homage

その後もオマージュの後継モデルとして、第2世代目として“Guarneri Memento（ガルネリ・メメント）”と“Amati anniversario（アマティ・アニヴァーサリー）”、第3世代目として“Guarneri Evolution（ガルネリ・エヴォリューション）”と“Amati Futura（アマティ・フトゥーラ）”、第4世代目からは“Guarneri Tradition（ガルネリ・トラディション）”と“Amati Tradition（アマティ・トラディション）”、そして新たなフロアスタンディング型スピーカー“Serafino Tradition（セラフィーノ・トラディション）”の3モデル構成になりました。「セラフィーノ」は「ニコロ・アマティ」の工房で腕を磨いたと言われる弦楽器の製作者“サント・セラフィーノ”から由来されています。



左から“Guarneri Tradition”、“Serafino Tradition”、“Amati Tradition”

新たに紡ぐ、第5世代となる“Homage”

そして2023年、初代Homageが発売されてから30年の時を経て、第5世代目となる新たな“Homage”が登場します。この度発売となる“Amati G5（アマティ）”、今秋発売予定の“Serafino G2（セラフィーノ）”、“Guarneri G5（ガルネリ）”の3モデルのラインナップです。

偉大な弦楽器製作者をオマージュしながら、これまで同社が永年培ってきた伝統と本機のために開発された革新的な技術が惜しみなく注ぎ込まれた、同社の最新世代のスピーカーとなります。全てが熟練職人によって丁寧に手作業にて製作され、同社のアイデンティティともいえるナチュラルで艶やかなサウンドは更なる進化を遂げています。



左から“Guarneri G5”、“Serafino G2”、“Amati G5”

■卓越した技術の継承によるキャビネット・デザイン

キャビネット側面は 同社の上級モデルで採用されているブライウッド構造を継承。

厚みの違うシート状の木材を木目の角度を交互に90度変えて8層に積層させ、プレス機で加圧しながら美しくも強靭さを兼ね備えた曲面を造形しています。更に側板の突板同士の接合部にはクリア・メイプルをダンピング素材として挟み込み使用しています。ラインを施したような印象的なデザインアクセントを持たせながら、異種木材の組み合わせによって木の響きを活かしつつ不要振動を排除するソナス・ファベールならではの木工加工技術がふんだんに盛り込まれています。



“Amati G5” Wenge 仕上げ

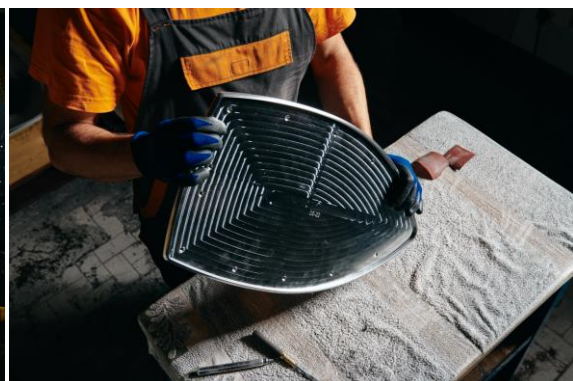
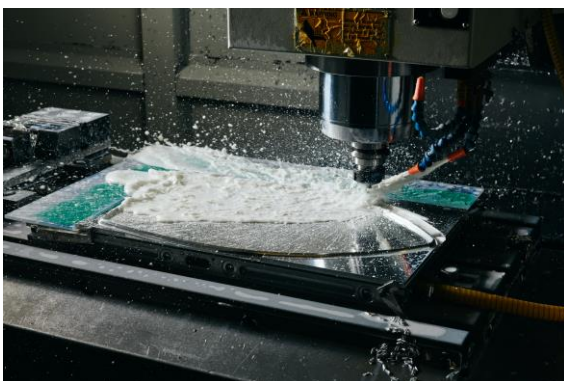
■剛性に優れたアルミニウム素材によるメタル・ワーク

天然木によるキャビネットに、アルマイト処理とラウンド・エッジ処理を施した CNC 加工アルミニウムプレートを取り付け、背面もアルミニウムパーツを装着、強靭なパーツで挟み込む独自構造「エキソ・スケルトン・クランプ」。

キャビネットをダンピングさせ振動成分を抑制するとともに、天然木ならではの豊かな鳴りと適度に引き締まった低域域の再生を実現します。美しい木製キャビネットの音響特性を引き出すため、悪影響を及ぼす床面からの不要な共振や振動成分をキャビネットに滞留させず、接地面に効率的に逃がすことで、淀みのないナチュラルな音楽を奏でることができます。



“Amati G5” 底面・スパイク部



極厚アルミニウムプレートの加工風景

■更なる改良が施されたバスレフシステム

バスレフポートのダクトに適度なダンブをかけ、ポートのチューニングを施すことで低域をコントロールし再生レンジの拡大を図る“Stealth Ultraflex”(ステルス・ウルトラフレックス)機構を継承。

アルミニウム押し出し成形により作られた堅牢なリアポート構造は、歪の原因ともなってしまうポートから排出される気流の乱れを波状のポート出口構造で最適化しノイズを極限まで抑制することで、低域の再現性をより向上させます。



←左：Amati Tradition

→右：Amati G5

後述する内部構造やドライバー・ユニット、ネットワークなど、ほぼ全てが一新され、バスレフ構造も本機のために再構築。

“Amati G5”では、バスレフがウーファの背面にのみ搭載。

ツイーター部、ミッドレンジ部には後述する“Intono Technology”を搭載し密閉構造としたため、バスレフポートを排除（赤枠部参照）。



■不要な振動を抑制する独自設計のスパイク部

床面からの振動伝播とキャビネット全体をデカップリングする手法として、同社による近年の優れた研究成果である“Z.V.T.”(ゼロ・ヴァイブレーション・トランスミッション)テクノロジーを踏襲しています。

“Amati G5”では、スパイクの取り付け部にエラストマー樹脂を挟み込む“エラストマー・サスペンション構造”を持つブラケットシステムを採用しています（右画像）。

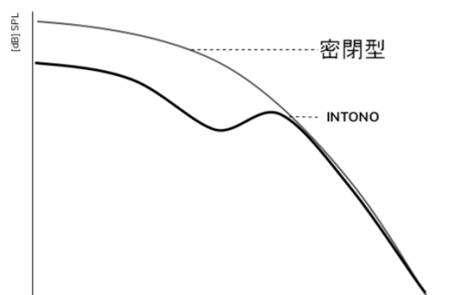
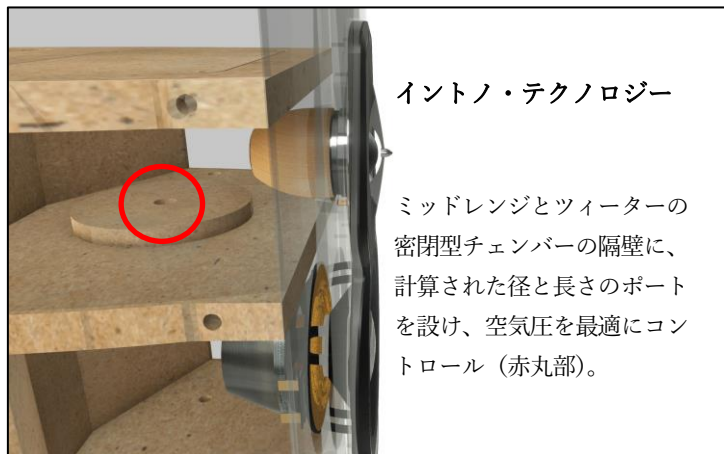


■革新的な新技術「Intono Technology (イントノ・テクノロジー)」

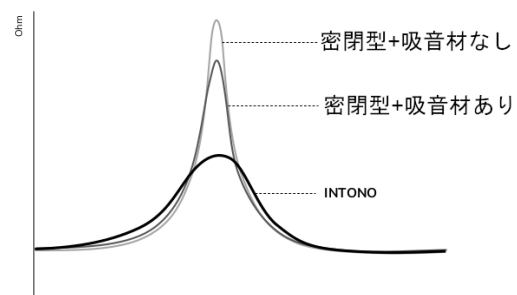
同社の最新テクノロジーであり、「Intono」はラテン語で「イントネーション (調音)」を意味します。ミッドレンジ・ドライバーが搭載されたチェンバーが密閉型の場合、ユニット動作の背圧による内部空気圧の上昇に伴い、特定の周波数においてインピーダンス・ピークが発生するため、再生時に悪影響を及ぼします。一方、ポートが設けられたチェンバーの場合、ポート内を移動する空気は位相がずれながらドライバーと衝突するために、チューニング周波数においてドライバーは出力を失ってしまいます。いずれもスピーカーの設計時における当然の問題であり、開発者は様々な解決策を講じてきました。最も一般的な対策は、適した減衰材を使用し空気の流れを制限する事で、ドライバーの効率を低下させるものです。

「イントノ・テクノロジー」は、密閉とポート両方の長所を兼ね備えた独自の理想的解決策です。New Homage ではミッドレンジ、及びツイーターのチェンバーをそれぞれ密閉型としました。更に、ミッドレンジのチェンバーとツイーターのチェンバーの隔壁に僅かな孔を設けています。ミッドレンジ・チェンバー内でインピーダンス・ピークが発生する特定の周波数と同じ共鳴周波数となる孔を設けることで、その特定周波数での空気圧によりツイーターのチェンバーへ流入し分散され、ミッドレンジ・チェンバー内のインピーダンス・ピークは大幅に減少、改善します。一方、ツイーターには同社伝統の木製チェンバーをドライバー背面に搭載することで、ミッドレンジ・ドライバーの影響は受けず、ツイーターの純度は保たれたまま、高域再生を実現します。また各チェンバー内には4種の減衰材を最適に配置しています。

イントノは、密閉されたエンクロージャの利点とポートの利点を備えた、より効率的なシステムです。これにより制約のあるパーツが少なくなり、よりシンプルなクロスオーバー・デザインが可能になります。



ミッドレンジのチェンバーの音圧が-6db 減少



インピーダンス・ピークが50%減少

■専用設計のドライバー・ユニット

・ツイーター

28mm径アローポイントDAD搭載シルク・ソフトドーム・ツイーター。強靱なアルミニウム・ダイキャストのフレームに搭載されたソフトドーム・ツイーターの頂点を部分的にダンピングさせ、ダイアフラムの逆相挙動を抑制します。高域の透明感、伸びやかさをより発揮させる独自の「DAD (Damped Apex Dome) テクノロジー」。

また、ツイーター背面には、同社のフラッグシップ・モデル“Aida II”にも採用された専用の木製チェンバーを搭載。ドライバー駆動時に発生する気流を制御し、レーザーエッチング加工による複雑な音響迷路を形成する内部構造により、透明でありながら力感のある、高純度な高域再生に寄与しています。

ドライバー部は本機のための専用新設計。高域の伸びやかさ、放射性、透明感の更なる向上と自然で理想的なバランスを追求しています。



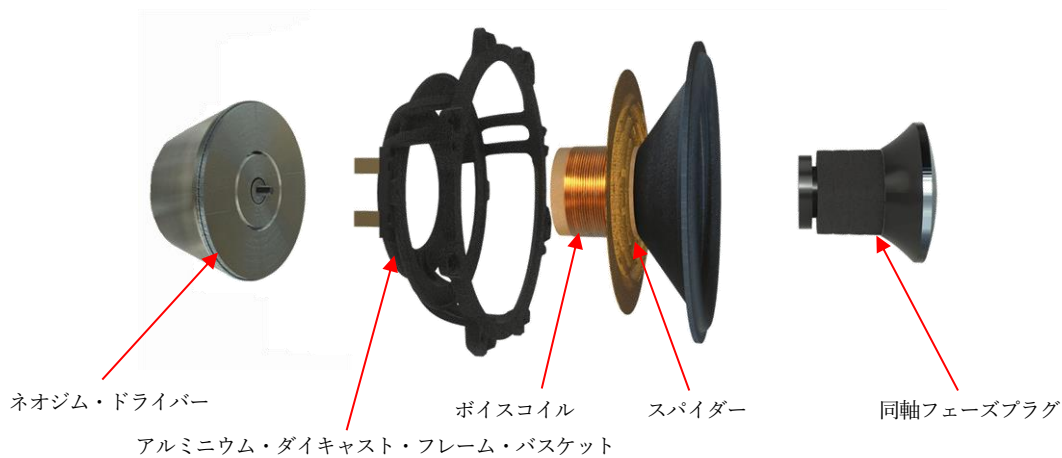
強靱なアルミニウム・ダイキャストのフレーム。
品質チェックから取り付けまで、全ては北イタリアの
工房で熟練職人による手作業にて行われます。

HOMAGE

Sonus faber

・ミッドレンジ

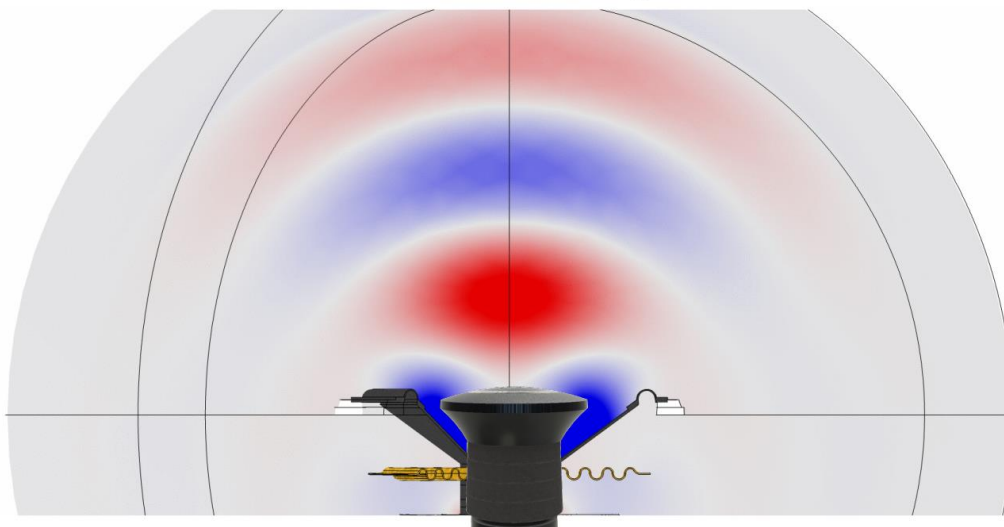
前作を踏襲するセルロース・パルプ、カボック、ケナフなどの天然繊維を調合し自然乾燥させた独自ダイアフラム150mm径ペーパーコーン。強力なネオジム・マグネットが、銅クラッド・アルミニウム巻線（CCA）で構成されたムービングコイルの高速且つ最短で正確な応答を実現。スパイダーには高耐久なBIMAX特殊素材を使用、バスケットは強靱なアルミニウム・ダイキャスト・フレームにより、理想的なハイスピード駆動と高いコントロール性を兼ね備えた事で、淀みのないナチュラルなサウンドを提供します。



新開発同軸フェーズプラグ

最新ソフトウェアによるコンピューター・シミュレーションを重ね理想的なフェーズプラグの開発に成功しました。ユニットが駆動する事で発生する気流を最適化し、乱れる事なくリスニングポイントへ一貫した波形パターンの伝搬を可能としました。その結果、軸上と軸外の双方で、スムーズな周波数応答が得られた事で、より高いレベルの明瞭さを獲得。サウンドの根幹を担う中域において真にナチュラルで空間を包み込む、これまでに無い音場再生を実現します。

The new Phase Plug



波形の伝搬イメージ図

・ウーファー

“Amati G5”のために専用設計された220mm ウーファーは、これまでにない新たな技術を駆使し、更なる進化を遂げています。

2つの超軽量 CCAW ボイスコイルは、超高速駆動を実現するため2つのエア・ギャップを備えたカスタムメイドのデュアル・ネオジウム・ドライバーに搭載。新開発センターキャップは、剛性に優れたABS樹脂で構成。

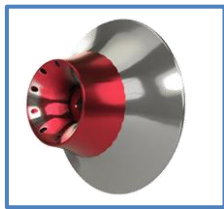
そしてボイスコイルの冷却を強化する新たなドライバー構造と、後述する「Finite Element Method ※」に基づく解析による最適なパーツ選定により、振幅のスムーズネスと可動域の大幅な改善を実現、類をみないパワフルな低域再生は新たな音楽体験を提供いたします。



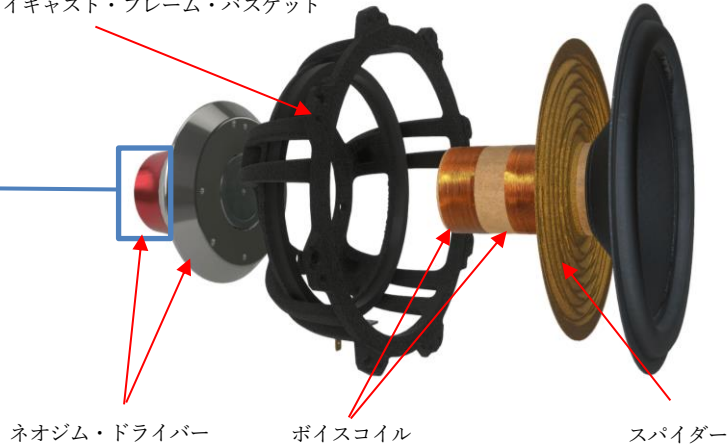
ウーファーの強力な駆動にも適応し、背圧を阻害しない

アルミニウム・ダイキャスト・フレーム・バスケット

新設計のボトムキャップ構造



エアポートを設け、ボイスコイルの冷却機能を向上させることで駆動効率を強化。



ネオジウム・ドライバー

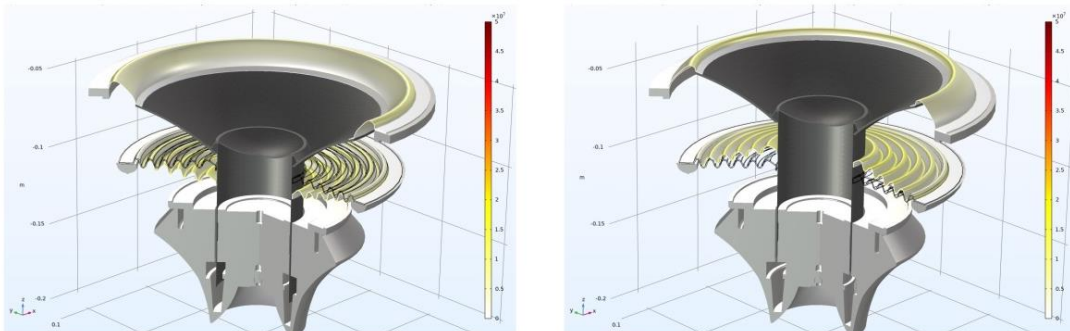
ボイスコイル

スパイダー

※F.E.M (Finite Element Method = 有限要素法)

コンピューターを用いた構造解析法で、自動車の衝突シミュレーションや正確な大気の変動予測にも用いられる手法です。複雑な組み合わせのシステムを細分化し、各部ごとに解析を行います。“Amati G5”に搭載されたウーファーの設計時にはこの手法を使用することで、技術的な視点からも更なる進化を遂げています。

コーンの可動域を正確に制御するために、駆動時の動きを詳細に解析しラバーエッジ、BIMAXスパイダーの素材や形状、厚みなどを選定し、柔軟性と可動域の広さを最適化。これに加え、カスタムメイドのネオジウム・ドライバーを組み合わせる事で、比類のない低域再現性能を発揮します。



Finite Element Method を用いた、“Amati G5”のウーファー部の駆動シミュレーション

■新設計のクロスオーバー・ネットワーク

クロスオーバー・ネットワークの徹底的なこだわりと研究は、同社の創業当時から続くスピーカーの設計において非常に重要な要素です。

回路は“アイダII”にも採用されている「PARACROSS TOPOLOGY™ (パラクロス・トポロジー (位相幾何学))」と、新たに開発した「Interactive Fusion Filtering (インタラクティブ・フュージョン・フィルタリング)」に基づく設計となっています。

「パラクロス・トポロジー」はウーファーに、「インタラクティブ・フュージョン・フィルタリング」はミッドレンジ・ツイーターに応用しています

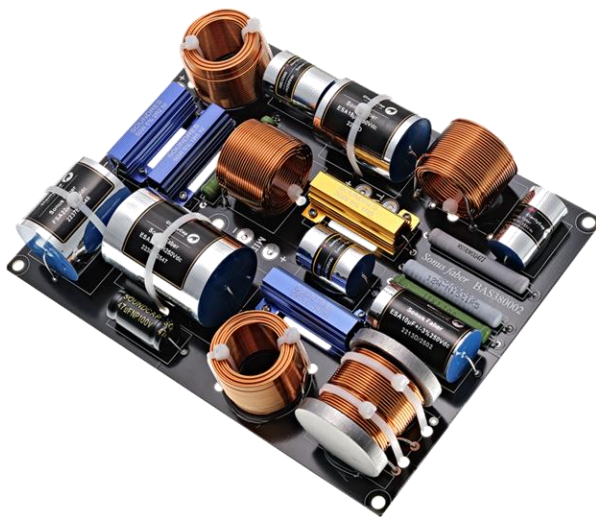
各ドライバー・ユニットの振幅/位相特性、空間/時間特性を最適化する一方、低周波数のインピーダンスを最適に制御してアンプとのマッチングに配慮しています。また高周波干渉を抑え、トランジェント特性を改善させることで、本機のポテンシャルを存分に発揮させることができます。

搭載するパーツも厳選された物を採用。Jantzen社製インダクター、Clarity Cap社とのカスタムメイドパーツ、MUNDORF社製高品位パーツを、幾度もリスニングテストを重ね厳選しています。

新技術を駆使し、進化を遂げたネットワーク設計により、各ドライバー間の繋がりが極めてシームレスでありながら、豊かなダイナミックレンジを持つ駆動が可能になり、後述する最新の位相コヒーレント設計と相まって音楽性とホログラフィック (三次元的) なサウンドステージを提供します。

Amati G5

中/高域 クロスオーバー・ネットワーク

**Amati G5**

低域 クロスオーバー・ネットワーク

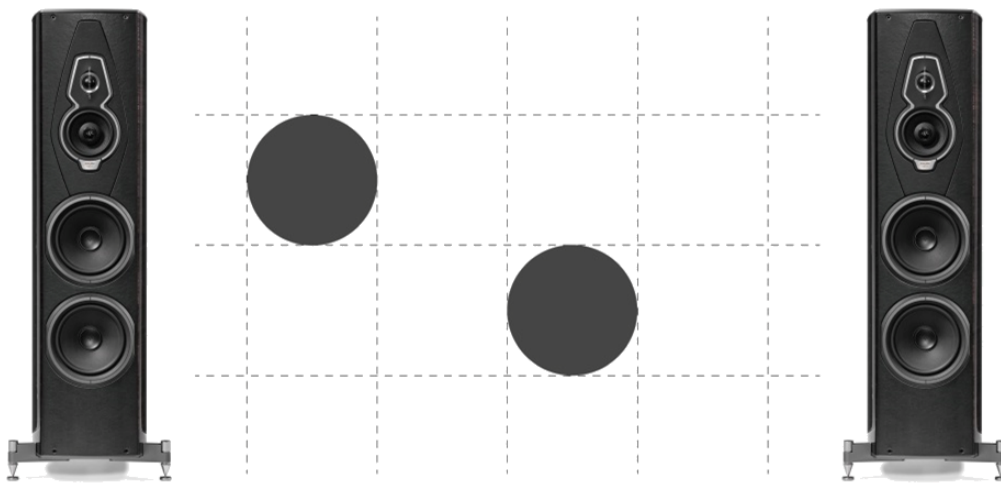


■新たな位相コヒーレント設計

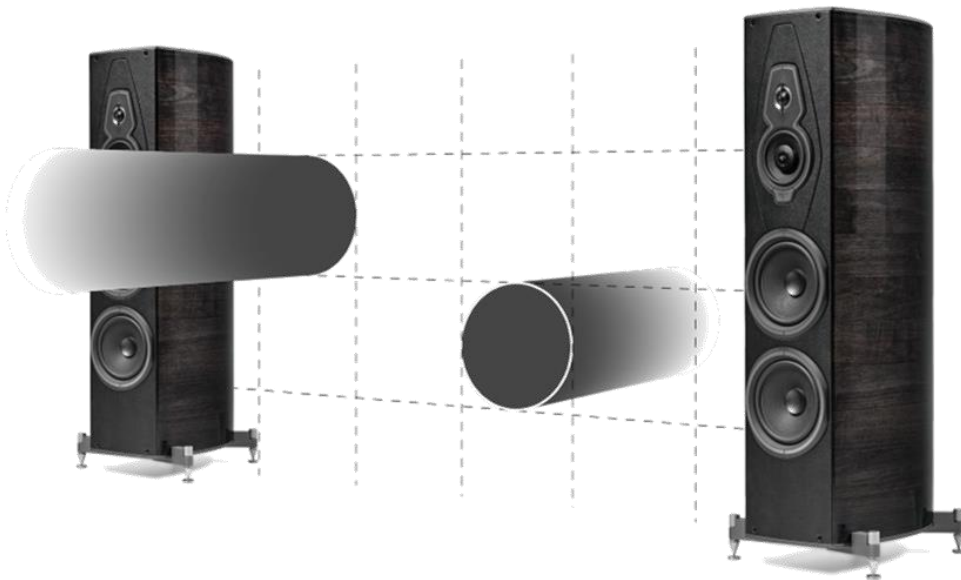
人間が原音に忠実で心地よい音を知覚するためには、位相とタイミングが全てです。

“New Homage”コレクションは、新たに開発したネットワークの技術「Interactive Fusion Filtering (インタラクティブ・フュージョン・フィルタリング)」やチェンバー設計「Intono Technology (イントノ・テクノロジー)」により、卓越した3次元的空間表現を実現しています。

左右スピーカーの中心から外れた位置でも奥行が感じられ、同社のアイデンティティでもあるナチュラル・サウンドに忠実で、唯一無二ともいえる音楽体験を提供します。



センターで聴いた場合の音の定位感。
細かな音の定位も忠実に再生。



センターから外れた位置でも音場の奥行が感じられる程、
真にホログラフィックな音楽再生を実現。

HOMAGE

Sonus faber

■同社伝統の美しい仕上げ

【Wenge】

細かなテクスチャのアフリカ産広葉樹ウエンゲ材を使用。



【Red】

同社伝統のウォルナット材にレッド・フィニッシュ。



【Graphite】

新たに追加された仕上げ。ウォルナット材にダーク・グレーの顔料を施したグラファイト・フィニッシュ。



HOMAGE

Sonus faber

■Specification

Amati G5

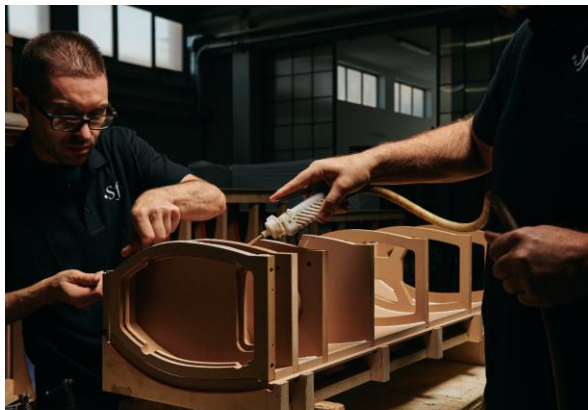


形式	3.5ウェイ 4スピーカー バスレフ方式フロアスタンド型スピーカー
使用ドライバー・ユニット	高域 28mm アローポイントDADシルク・ソフトドーム型
	中域 150mm ダンピング・フェーズプラグ搭載コーン型 (ナチュラル・ファブリック)
	低域 220mm コーン型 × 2 (セルロース/シタクチックフォーム・サンドウィッチ構造)
周波数特性	28~35,000Hz (ステルス・ウルトラフレックス含む)
出力音圧レベル	91dB/W/m
公称インピーダンス	4Ω
クロスオーバー周波数	200Hz / 270Hz / 2,200Hz
推奨アンプ出力	50~450W (クリッピングなし)
スピーカー端子	バイワイヤリング対応端子 (HIGH/LOW)
外形寸法	W416mm × D516mm × H1180mm (本体部、突起部含む)
本体重量	56kg/本

HOMAGE

Sonus faber

■ 熟練の職人による、Handmade In Italy



NOAH 株式会社 **ノア**

112-0013 東京都文京区音羽1-1-7 正進社ホールディングスビル4階
TEL 03-6902-0941 FAX 03-6902-0944 <http://www.noahcorporation.com>